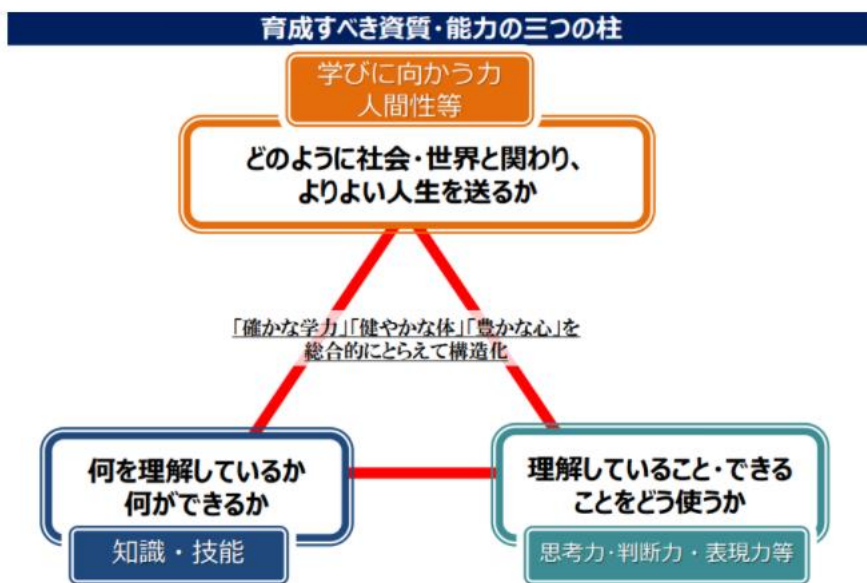




## 非認知能力が大切なんだね！

非認知能力は、認知能力に対比されるもので、数値化できない能力（例えば、集中力、行動力、思いやり、協調性、対応力、忍耐力…）のこととされています。新しい学習指導要領では、資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に整理しています。この3つの柱の中で、「学びに向かう力・人間性等」が非認知能力に当たるのです。



2018年4月に幼稚園教育要領、保育所保育指針が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」が示されました。その約7割の内容が非認知能力に関わる内容です。

### 「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活とのかかわり  
⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

このうち、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活とのかかわりが、特に非認知能力と深く関わるものとなっています。

この非認知能力を伸ばすためには、どのような対応をしていくことが有効なのでしょうか。幼稚園教育要領解説には、「幼稚園教育においては、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも大切である。」とあります。

では、非認知能力を高める上で、保育者としてどのような事を大切にしたら良いのでしょうか。これまでの研修会などでもその事に触れた示唆があったと思います。以下に1つの例を載せました。参考にしてください。

### 《非認知能力を高めるための保育者の取り組み》

- 1 子どもが安心できる環境をつくる
  - 2 子どもが自分から興味を持って観察したり、調べたりする時間を邪魔せず、そっとサポートする
  - 3 本人が何かをやり遂げたり、成功したり、失敗したら、そのことに共感する
- …子どもが主体的な活動するための「環境構成」では、①安心感・安定感が得られるような環境 ②興味

や関心を持ち、思わずかわりたくなる環境 ③試行錯誤を繰り返すことのできる環境 が挙げられています。まさに上記の1 2 3は、この内容につながるものです。

2018年5月12日に放送された、「NHK すくすく子育て」で、東京大学大学院教授の遠藤利彦先生（専門；発達心理学）と聖心女子大学教授 河邊貴子先生（専門；幼児教育学）の対談で、次のような話がありました。視聴者の疑問にお二人が答えるQ&A方式のものです。その中で非認知能力について、次のようなやりとりがありましたので、紹介します。

Q：私は元保育士で、子育ての知識は多いほうだと思いますが、「非認知能力」ということばに少し戸惑っています。何を学ばせて何を身につけさせれば正解なのか、いつごろからはじめるものなのか、日常的に取り入れるものなのか…。非認知能力を育てるためには、いつから、どんなことをすればよいのでしょうか？

回答：遠藤利彦 先生

#### 「夢中で遊べるように、子どもが安心できる環境を」

…非認知能力を育てるには“遊び”が大切です。そして、子どもが夢中になって遊ぶためには、安心感に包まれていることがいちばんの前提条件だと思います。家の中に、安心基地や困ったときの避難所があると、不安から解放されて、好奇心の塊のようになって遊ぶことができると思います。

回答：河邊貴子 先生

#### 「学ばせるではなく、自分で身につけていく」

…非認知能力は、学ばせるというよりも、子ども自身が遊びの中から学んで身につけていくものだと思います。“遊び”とは、おもしろいと興味を持ったものに自分から近寄って、夢中になって、いろいろ試しながら世界を知っていく行為です。親は、一緒に楽しんで、共感してあげることが基本になるのではないのでしょうか。特別なことをするのではなく、ふだんの関わりや生活の中に遊びがありますので、毎日接することが大事だと思います。

Q：関わっていることが大事ということでしたが、ただ遊ばせればいいのですか？

回答：河邊貴子 先生

#### 「子どもが自分から関わることを大事に」

…誤解を恐れずに言えば、ただ遊ばせればいいのですが、子どもが本当に興味を持ったものに、自分から関わることを大事にしてください。そういった“遊びの質”がとても大事になると思います。

お話の最後に、お二人の先生からのメッセージがありました。

#### 親のまなざし・共感が子どもの生きる糧に

子どもの力を伸ばしてあげようと焦る必要はありません。子どもと同じ目線になって一緒に楽しんでください。一緒に楽しんでくれたときの、親のまなざしや、共感してもらえた・受け入れてもらえたという気持ちが、その子の生きる糧になっていきます。子どもとの生活を楽しむことがいちばんなのです。

（河邊貴子先生）

#### 当たり前のことを、ふつうにすればよい

子どもには、当たり前のことをふつうにやってあげましょう。特別な働きかけをしてあげることが親や大人の役割だと思いがちですが、当たり前の部分を改めて確認してみるといいと思います。

（遠藤利彦先生） （引用；<https://www.nhk.or.jp/sukusuku/p2018/734.html>）

河邊貴子先生には、11月27日（土）の秋季公開講座で、「遊びの質を高める保育」についてお話しいただきます。非認知能力にふれたお話がお聞きできるのではないのでしょうか。（専門員）